

Track_9 斎藤美彩

●背景：保健室

2ーA、斎藤美彩です。

失礼致します。

本日は……。

ひっ…！？

な、なんで裸なんですか！？

し、し、しかも男性！？

検診って、男性がするのですか……！？

(主人公「落ち着いてください。私は検診してるだけです」)

は、ハア！？

検診してるだけって……。

なぜ裸である必要があるのですか！

(主人公「橘先生からなにか聞いてませんか？」)

た、橘先生？

あっ……今朝、色々聞いてはいますが……。

男性耐性検査と、奉仕検査、とか……。

あ、あの……それって、全裸と関係が……。

(主人公「ええ。この学園には大事なことです」)

が、学園にとって大事……？

(主人公「処女検診は学園の理念に沿ったものですよ」)

……たしかに、当校は一流の女性を育てるという理念があります。

処女検診って、それと関係が……。

……わかりました。

あ、あの……絶対に、誰にも言わないでください。
それと、変なことはしません。

それでいいのでしたら……その、
検診を受けさせていただきます……。

……あ、全裸にはなりません！
別に脱がなくてもできますよね？

(主人公「ええ、もちろんです」)

問題ないなら、脱ぎません。
聴診器も下着越しなら、対応しますが……。

(主人公「いいですよ。受けることが大事ですから」)

……ご理解いただき、ありがとうございます。
人のいいなりにならないのも、
生徒としては大事だと思うので……。
で、では……座り、ますね。

失礼します……。
まずは……なにを？

(主人公「自己紹介をお願いします」)

はい。私は、斉藤美彩です。
特技は英会話。趣味は読書。
成績は学年で3位。
えっと……自分で言うのも変な話し、ですが……、
中学時代は、私のファンクラブがあったみたいです……。

(主人公「ファンクラブ？」)

はい。男の子達が、私の応援するためのらしくて。
聞いた話し、ですけどね。

(主人公「中々の才色兼備ですね」)

あ、ありがとうございます……。
それと……あとはなにを言えば？

(主人公「スリーサイズとかの情報も」)

う……そ、そんなところの情報も……？
ん……わかりました。

身長は155cm……体重は45kgです。
スリーサイズは、95cm、54cm、85cm……です。
カップは……F。

次は……？

(主人公「膣内の検査をさせてください」)

へっ！？
あっ、アソコ！？
嘘ですよね！？ アソコを見るんですか！？
こ、ここ女学園ですよ！？

(主人公「橘先生は受けましたよ」)

え……？
先生も受けたんですか？
えっ……ううう……。
うう……どうしても、受けなきゃダメですか……？

(主人公「ええ……服はいいですが、検査は義務です」)

う～……義務、義務、義務……。
わかりました……。
受けます……。

座ったままで、いいですか……？

検査って……中、覗くんですか……？

う……。

恥ずかしい……ッ。

やだあ……もお……。

ひ……！

(主人公「パイパン？」)

ば、パイパンって、なんですか……？

(主人公「毛が生えてないって意味です」)

それでしたら……は、はい……。

毛は、生えてなくて……。

あ……！

やだやだやだ……！

なにッ、してるんですか……！？

こんなこと……は、犯罪ですよ……！

ううっ、ッ、う……やめて……ッ。

ううう……！ や、ああああ……っ。

これえっ、なんの検診になるんですかあ……！

おかしい、おかしいです、これえ……っ。

ああっ、うっ……はあっ、う、う……ッ。

なんで、こんなこと……ッ。

(主人公「処女膜のチェックです」)

はあっ、アッ、ああ……っ。

ま、膜……？

これが、検査……？

ぎゃ、逆じゃないですか……！

これ、逆に膜破れちゃう……ッ。

んんん、う、ッ、うくうう、ん、うう……ッ。

んん、ッ、ん、ん……ッ。

最低ええ……ッ。

あう、ん、くうッ……ふうう、う、うう……ッ。

やだ、ッ、あつ、ああ……ッ。

一流の女性になるのにつ、な、なぜ……ッ、

このような、こと……！

私、ッ、恋人はいません……ッ。

好きな人も、いません、が……っ。

はあつ、う、ううっ、初めては、添い遂げる方にと、

決めて、いるのに……ッ。

ああああああ……！

やだやだッ、うううう……！

耐え難い……ッ！

こ、これはッ、苦行です……っ！

う~~~~……ッ！

納得できないいいい……！

ああああッ——わ、私ッ、これどうなって……！

あああッ、き、きちやううう……ッ♥

ああっ、ごめんなさい……っ！

検査なのにッ、学園内ッ、なのに……！！

んう~~~~……ッ！！

うんんん……ッ！！

アッ、ああ……！

はあっ、はあああ……っ！！

下品、ですよ……！

このようなっ、粗暴な真似……！

はっ、ああ……！

私、聞いてません……！

たしかに、橘先生は……なにも言えないと言っていました……、
だからって、こんな……。

う……！

あ、あの……っ、なんですか？

恥ずかしいので……そ、それ……隠して、ください……。

(主人公「ペニスの観察をしましょう」)

へ……？ か、観察？

それも、検査なんですか……？

いっ、意味がわからないのですが……。

(主人公「ほら、ペニスはどうなってますか？」)

ど、どうって……。

あの……りゅ、隆起してます……。

これは……完全体、ですか……？

(主人公「先端はどうですか？」)

先端？

あの……結構、ピンクなんです……。

イカの頭みたいに……不思議な造形で……。

(主人公「睾丸はどうですか？」)

睾丸……。

もっとだらんとしてるイメージだったんですが……、

袋がキュッとなってるんですね……。
丸くなって……。なんだか、んうう……。
変な匂いがするので……。これ以上は、近づけません……。

(主人公「観察したじゃないですか」)

……。あ。
先生、策士ですね……。
矢継ぎ早に質問されたら……。意識せず、見てしまいました……。
それで……。あの、次はどうすれば……。
まだ、観察するんですか……？

(主人公「次はスキルチェックです」)

す、スキルチェック……。？
もしかして……。奉仕検査という、ものですか……。？
はあああ……。嫌な予感がします……。

Track_10 齊藤美彩

●背景：保健室

(主人公「次は口で奉仕をしてください」)

く、口！？
口で……。これを舐めるんですか……。！？

いやです！ 絶対に！
さ、さすがに度が過ぎませんか！？

(主人公「みんな舐めましたよ？」)

み、みんな！？
橘先生もですか！？

(主人公「避けたら減点します」)

げ、減点ってえ……。
こんな理不尽なこと、ありますか……？
はあ……もお……こんな検診があるなら、
私立に通いたいなんて言うんじゃないか……。

んもお……。
だれにも……言わないでください。
先生にも、両親にも。

すう……はあ……っ。
すう……はあ……っ。
よし……。

……ちゅ。
こ、ここ、舐めれば……いいん、ですよ……？

れるっ、ちゅっ、うう、ちゅ……。
なんか……屈辱的じゃ、ないですか……？
人様の性器に口をつけるって……。

ちゅる、ん、ちゅ、んん、ふあ、ふじゅ……。
こんな行為……一流の女性は、しないと思うんですが……。
どうして理事長は、こんな意味のわからない検診を取り入れてるんでしょう……。

(主人公「しゃべるよりも舐めてください」)

ご、ごめんなさい……。
んちゅ、ん、ふふ、ん、うう……。
ちゅろ、じゅ、んっ、ふ、ん、えろ……んん、ちゅ。

はあ……はあ……。
れろ、ん、ちゅ、ちゅく、ちゅ……。
れろ、れろ……れろ……んん、ちゅ、ちゅ……。

これは、どこまで舐め続ければいいんですか……？

(主人公「射精するまでです」)

しゃ、射精……??

無理ですよ……！

私、口に含む経験もなかったのに……そ、その、
射精なんて、それこそ慣れてる方がするものでは……!?

ちゅ、ん、ちゅうう、それに……私の口で、
いけると思いますか……？

れろ、れろ……んん、ちゅ、ちゅく、ちゅ。
ん、ちゅ、ちゅ……。

んん、れろ、れろっ、んん、ちゅ。
ちゅっ……ううッ、ん、ちゅ……。
なんで、なんで私い……ううっ。

(主人公「睾丸を舐めてみましょう」)

ん、れろ、れろ……え?
こ、睾丸を……?
うう……い、嫌、です……。

(主人公「それでしたら減点を……」)

わ、わかりました!
もお! なんで成績に影響させられるんですかあ!
先生、外部の方なのに……。

んう、んっ……で、では……。
舌で、睾丸を……。

れろ……ん、んちゅ、ちゅ……。
れろ、れろ……んく、ん……ちゅ……。

れろっ、ん、んう、ちゅ……。

睾丸って、丸い、ですね……。

啜てみたり、とか……。

あむっ、ん、ンッ、んんむう……。

ち、力加えすぎたら大変そう……。

んむむ、んっ、ちゅ、チュッ、ちゅ。

はあっ、ん、んむう……。

舐める方が、まだ簡単……。

んんむう、ちゅ、ちゅく、ちゅ。

んん、ちゅる、ちゅ……ん、チュッ。

はあ……はあ……ちゅ、んん、ちゅッ。

(主人公「素晴らしいです」)

は、はあ……。

褒めてくださって、ありがとうございます……。

これで、いいんですか？

でも、射精させるまでって……。

(主人公「次は胸も同時に使ってみましょう」)

む、胸？ え？ 同時に使うって、どうやって……。

(主人公「パイズリは存じないですか？」)

ばい、ずり……。

あの……ああ、あの……そういう品のないことは、ちょっと……。

(主人公「相手の性癖に沿った行動をするのも一流の女性」)

もお、一流一流って……。

わかりましたよお……。

私、どんどんはしたなくなる……。

はあ……。

本当にこれ……全員してるんですか？

検診から戻った子達……みんな普通の顔してましたけど……。

(主人公「みんな、最後まで経験しましたよ」)

最後まで……？

みんな、本当に……？

最後って……あの、どこまでするんですか？

(主人公「それは秘密」)

また秘密ですか……。

(主人公「なにしてるんですか？」)

え？ ぶ、ブラジャーのままじゃダメ、ですか？

私、多少あるので……このままでも、できるとは思ってた……。

(主人公「直じゃないと匂いがつきますよ？」)

う……そ、そうですね。

匂いは……困ります……。

両親に知られたら、困ります……。

うう……。

ジロジロ、見ないでください……。

ん、う、えっ、えっと……これで、挟めばいいんですか？

ぺ、ペニス……。

(主人公「ええ。挟んで、射精まで導いてください」)

わかりました……………。

挟みます……、

んくッ……ん、う……んう……。

これで、どう……ですか？

ん……う、ん……。

ん……動かします……。

はあ……はあ……んう。

ん……これで、本当に射精できるんですか……？

私……一応、そういう知識は持ってて……、

ん、ッ……、ですが、一切経験はないので、

どうすれば射精するかが、わからないのですが……。

ん……んう……ん……ペニスは、

強い刺激を与えた方がいいんですよ……？

んく……ん……ん、でしたら……、

あ、あの……こっち、見ないでください。

私、やってみたいことが……。

あむんん、ちゅ……ちゅつ。

絶対に、見ないで……。

ん、ちゅ、ちゅる、ちゅ……んうう、ちゅ。

(主人公「いいですね……素晴らしい応用力」)

ちゅ、ちゅる、感じてるんですか？

ちゅッ……んん、ちゅ、恥ずかしいです、けど……、

感じていただかないと終わらない、ので……、

ん、ッ、ん……ちゅ、頑張ります……。

んくんん、う、ん、ん……ふうう、ん、ん……。

ふう、ん、ちゅ……ちゅる、ちゅ……。

んむんん、ちゅ……ちゅ、ちゅる、ちゅっ。
はあ……はあ……んんん、ちゅッ、ちゅ。
早急に、射精してください……。

んん、ちゅ、ちゅむ、ちゅ……ッ。
うううっ、んぷ、ん、ちゅ……。
いちまでも、舐めてたくは、ないので……。

それに、んん、ちゅ、ちゅっ。
すんすん。

うっ……！
この匂い……っ。
胸に、こんな匂いつけながら……はあっ、はあ……、
不快にも、ほどがあるので……。

ちゅうう、ちゅッ、ちゅむむっ、ちゅ。
早く、終わりたい……っ。
はあ、はあ、うう、匂いで、おかしくなりそう……。
早く、早く……っ。

はあっ、はあっ。
んん、ちゅむ、ちゅ、ちゅうううッ。

(主人公「イキますよ」)

えっ？ い、イク？
ちゅむううう、ヂュっ、どこで、受け止めればいいですか？
あの……ティッシュは？

ぢゅるるッ、ぢゅっ、ぢゅッ。
んうう！？
はなひへッ！
んむう~~~~~っ！
ぢゅびゅ！ ジュッ、んうううう！！

まっへええ！ びゅぢゅッ、ぢゅっ、ぢゅ！
んぢゅッ、ヂュッ！ んう~~~~~っ！！

んびゅんんんうううううう！！
ぶひゅ！ けほッ、けほ！

んっ！ ンッ！ んううううう！
はあッ、はあアッ！ んうう……ぶぢゅ、ぢゅうう！！
うふッ、ん、うううう……！

んくんんっ、ん……はあ、はあ……っ！
んうッ、ん、んっ……あ、あああ……っ！

ふはああ……！
こ、これえ……！
はきだひゃひえへえくらひゃい……！（吐き出させてください）

（主人公「飲んでください。それもオトナへの道」）

へえっ！？ の、飲むんれしゅか！？
ううッ……もお……！

ごくッ……ごくッ……んんう。
はああ……っ。
飲みました……飲みましたよ……！
うううっ、もう、検査終わりですよ？

十分、耐えました。
これで一流の女性になれましたよね？
お願い、ですから……これ以上は、望まないでください……。

●背景：保健室

これで、検査は終わりですよ。
退室してよろしいでしょうか？
すぐ口をゆすぎたいんです……。

無理やり頭掴まれて……不快でした。
処女検診の件は内密にしますが……、
ああいう行いをする人とは、一緒にいたくありません……。
では、これで――

(主人公「まだ終わってませんよ」)

は？ い、いえ。
終わってないって……スキルチェックはしましたよ？
あ、身体検査、ですか……？
ですが膣内を見たじゃないですか……？

(主人公「最後は処女を捨てる検診です」)

捨て――え？ はい？
捨てる？ 処女を？
え？ それは……あの……せ、セックスをする、ということですか……？

(主人公「ベッドに寝てください」)

ぜっつったいに嫌です。
処女は結婚する方に捧げるものですよ？
なんで、あなたとしなければいけないんですか……！

(主人公「この学園は処女のまま卒業できません」)

……え？ なら……卒業生の方は、みんな、
処女検診で、処女を捨ててるんですか……？

私、見えました……。

去年、卒業式の映像……。
あんな綺麗で、品のある人達が……、
こんな場所で、こんな形で……しょ、処女を……？

(主人公「すべてを経験して、オトナになってこそ一流」)

すべてを、経験……。
はあああ……。
なんで、なんで……。

(主人公「拒否してもいいですよ？ 単位を取るのが難しくなりますが」)

……処女を守るだけで、成績に影響を……。
やらなきゃ、終わらないみたいですね……。

こんな形で単位を落としたら、
それこそ、両親に言及されて……口に含んだことがバレてしまいます……。

……………やります。
あの、ただし……初めてなんです。
コンドームを……。

(主人公「もちろんです」)

あ、よ、よかった……。
それと……恥ずかしいので、顔は見ないでください……。
あと、先生が動いてください……。
それでしたら、
私でも、なんとか、できそう……。

(主人公「してみたかったことは？」)

エッチを？
うーん……エッチをしたいと思ったことは、あまりなくて。
性欲が、湧かないので。

(主人公「そのわりにパイザリの仕方は知ってますね」)

は、はい。

パイザリは……あの、女子校を清楚なものと思ってますか？

女子校だから余計に……そういう、悪ふざけをしてる子とか、多いんですよ。
ペンを谷間に挟む子とか、

ペンをエッチに舐める子とか。

そういうので、意図せず知恵がついちゃって。

(主人公「なるほど……思った以上にエッチなんですね」)

そうですね……私立の女学園も、わりとエッチです。

で、ではベッドへ……。

準備、できました。

処女って、こんなあっさり捨てるものなんですね……。

それが……コンドーム……。

……あの、橘先生は試しにいくと言ってました……。

もしかして……先生も経験、したんですか……？

(主人公「守秘義務です」)

い、言えない、ですか……。

……ああ、でも……処女検診だから、処女以外の方は……そっか。

はあ……ん……。

つけ終わりましたか……？

(主人公「自分で求めてください?」)

え……私が、催促を……？

んう……品のない言葉は、苦手ですが……。

う……んう……。

い、入れて、ください……。
お、お……おちんちん、を……。

あっ……！
やッ、やだ……！
はいつ……て……！

あああああああ……ッ！
んううううううう……ッ！
アッ……！ あっ、はあつ、はあ……！
はあつ、うッ、う……！

ご、ごめんなさい……っ。
ひとりで、達してしまい、ました……。
は、初めてなので……つい……。

んう……あ、あの……どうして、動かないんですか……？
……あ、そっか。催促……。

はあ……。
動いてください……。
おちんちん……し、し……シコシコ……。

んあああ……ッ。
うくッ……ううううッ、アッ、はあつ、う、うう……！

んんんっ、うッ、あつ、はあつ、はあ……っ。
これが……え、エッチ……っ。
くる、しい……っ。

おっきいのが……私の中で、ズリズリ、と……っ。
かけめぐっ、て……っ。
あつ、はあつ、はあつ、んくッ、うううっ。

やっ、近いです……ッ！
くっつかないで……うううう……ッ！

(主人公「キスを経験しましょう」)

嫌です……っ！

キスはッ、絶対に嫌……！

はあっ、ううっ、ほかの方がどうかは知りません、が……っ、
検診と関係ないなら、絶対にしません……！！

ううっ、はあっ、ッ、んっ、うう……ッ。

おちんちんで、さえ……っ、もう、自分でなにしてるか、
わかんない、のに……っ！

もう泣きそうなくらい、パニックです……！

なんで、処女捨てちゃってるんだらうって……！

過去に悔いることになりそうで……っ！

ああああああ……！

やっ、ああッ、せ、先生……！

早いです……っ！

うううッ！ もう少し、加減を……！

なんでっ、真面目な話ししてるじゃないですか！

はあっ、ううッ、それにこれッ、私のための検診ですよねっ？

先生の発情に付き合うのはおかしいですよ……ッ！

うううううう！

あああッ、ん、んううう！

やッ、ああああッ！

もうっ、うううッ、おかしく、なっちゃう……！

ううッ、はあっ、はああ……！

アッ、ああ……っ！

もう少しッ、優しさを……！

あっ、うううッ、はあっ、ん、うう……！

あああっ、あの……ッ。

イキます……！

私ッ……アアッ、ダメえええええ……！

ううううううッ！！

アアアアッ、な、なんでっ……！

なんで止まってくれないんですか……！

あああああッ！

はあッ、はあッ、止まってえ……！

いいいっ、イッてます……！

私、イッてますからあ！！

あああああッ！

ああっ、アッ、はあっ、はあ！

んくッ、うう！

はあっ、はあッ！！

うううッ、ん、んっ！！

んうううう……！

やめてッ、ああっ、あん、うう、んっ！

揉まないでえ……！

アッ、ああッ、んく！

ん！ んっ、はあっ、はあッ、ん！

勝手に、触らないでッ、うう！

おっばい、形崩れちゃう……！

あうッ、ん！ はあっ、はあっ、んんん……ッ！

くううううっ、んんん、んっ！

アアアッ、やだッ、ああああ……！

激しいッ、ううっ、ん、んうう！

こんな検診、間違ってます……！

はあっ、はあっ、ぜ、絶対、理事長に直談判して……ッ、

後輩達のためにも、このルール、変えないと……ッ。

ううんんッ、んく、う……！

はあっ、アッ、ああ……！

(主人公「射精しますよ」)

しや、射精……？

イクん、ですか……？

あああああああ……！！

んんんッ——ああああっ！

うくううう！ ん、うう！ や、ああアッ、ん！

んっ、はあっ、はああっ！

あっ、こ、これ、すごく激しい……ッ！！

んんんんん！！

あん、ん、んく！ やだッ、ああっ、んくっ、んうううううう！！

イクイクイク……ッ！！

ああああ、私もイクっ！

くううッ、コンドームついてますよね！

平気ですよねっ？ コンドームって、破けませんよね？

ううううううう、ん、ん、んううう！

ああッ！ い、イクッ……！

ううう～～……ッ！

いやあッ、い、イツちやう……！

んう～～～～～～～～～ッ！！

あ……っ！！

でっ、でてる……！

アッ、あああ……はあ、うくッ、う……！

コンドームの……奥でッ、ん、ううう！

中に……っ、精液が、どくどく……感じます……ッ。
んんうう……んっ……んん、あっ、うう……っ。

(主人公「おめでとうございます……卒業しましたね」)

は、はい……っ。
卒業、しました……っ。
これ、はあっ、う、のちの恋人に経験を聞かれたら……、
どう、答えればいいんでしょうか……。

そういうの考えると……やはり、処女検診はおかしいです……。
ただ積み重ねた経験なんて、意味ありません……。

(主人公「大事なのはどれだけもてなせるかですよ」)

……おもてなし？

(主人公「結婚した相手を気持ちよくするためのもてなしです」)

……男性は、女性が上手な方が嬉しいのですか？
……私の家系は兄がいるので、
家系は兄が継ぐと思います……。

私は嫁いで、子をもうけて……そういう幸せを、
ずっと両親に望まれて……。
その時に……これ、役に立つのですか……？

(主人公「もちろんですよ」)

はあ……そう、ですか……。
なら……少し程度、ですが……前向きに、捉えます……。

(主人公「それと、もう一回付き合ってもらいます」)

……え？
も、もう一回い……？

嘘……ですよね……？

Track_12 齊藤美彩

●背景：保健室

あ……っ。

はあっ、ん……抜けた……。

す、すごい、ですね……コンドームの先端に、精液がたぶたふと……。

わ……。

ど…どうして…縮んでないの？

二度も大量に射精しているはずなのに……。

そ、それでもうっかい、とは……。

(主人公「次が最後ですよ」)

次が、最後の……テスト？

本当に最後ですよね……？

最後、最後、と……詐欺のように繰り返さないでくださいね。

きや……！

た、体勢チェンジですか……。

これは……。

はあ……んう、つまり、私に動けと……。

そういえば奉仕検査、でしたね……。

理には適っているわけ、ですか……。

(主人公「さあ、このまま入れてください」)

へ？ こ、コンドームは？

(主人公「ありません。そのまま」)

な、なに言ってるんですか！？

生ですよ！？

妊娠しちゃいますよ！？

(主人公「生を経験し、あらかじめ快感を知っておくんです」)

これも、一流の女性に必要だと……？

うう……っ、お、おかしいじゃないですか……。

生挿入を経験させる学園がどこにあるんですか……。

(主人公「単位は……」)

ああ……もうもうもう……っ。

そうやって、すぐ単位をちらつかせる……。

脅しですよもう……。

はあ……うう、わかりました……！

その代わり……！

絶対に、外で出してくださいね……？

うう……カチカチ……。

これ、生で……？

はあ……はあ……っ。

い、いきます……！

んぎゅ……！

うッ、ううううう……！

はいつ……て……！

アッ、うう……生ッ、あつい……！

こんな、違ッ……あああああ……！！

うう～～～～～ッ！！

あううう！ アッ！ はあっ、はあっ……！

い、イッてしまいました……！

ううッ、はあっ、う……もう、感じやすい人みたいで嫌……。別に、そんなつもりがないのに……っ。

(主人公「さあ、動いてください」)

うう……き、鬼畜……っ。
そう、急かさないうでください……。
はあっ、ん、うう……い、いきます……。

んあああ……っ。
ううううっ……はああっ、んく、う、う……ッ。
生は……あ、熱い……ッ。

んんんっ……はあっ、あ、ああ……ッ。
んくっ……うっ、はあっ、ん、んう……っ。
中が……い、いっぱい、擦れる……ッ。

(主人公「どこが擦れますか？」)

どこがって……。
はあっ、はあ……わ、わかるじゃないですか……。っ。
んんっ、あからさまなセクハラ、やめてください……。っ。

はっ、あっ、う……。っ。
んんうッ、ん、ち、膣ですよ、膣……。っ。
膣に、ペニスが擦れてるんです……。っ。

(主人公「膣を別の表現で」)

ほ、ほかの名称でって、こと……。？
それっておま——んんうう、い、いえ、言いません……。っ。
私、そこまで、言えませぬ……。ッ。
はあっ、はあ……。ッ。

ううッ、んっ、んッ、ん……っ。
動いてるだけでも、一定の評価をしていただきたいです……っ。

んうううっ。
はあっ、うくッ、う……はあっ、はあっ。
んんうう、ん……ッ。

(主人公「そのまま耳を舐めてみましょう」)

み、耳？
それくらい、なら……。
れろ、んん、ちゅ、ちゅく、ちゅ……。
れろ……れろ、んぷぷ、ちゅ、ちゅううう。
はあ……はあ……あ、ううう、ん、う……。

ちゅ……そこ、あ、ああ……ッ。
舐めるだけで……反応、するんですか……？

はあ……はあ……んんううう、うッ、く、う……っ。
ん……はあ、はあ……あ、あうう……んうう。
熱い……っ。
んうう、ちゅむ、ちゅむ、ちゅ、ちゅッ。

れろ、れろ……うう、ん、ちゅ……ッ。
な、舐めると、すぐビクビクするの……嫌です……。

んんん、ちゅ、男の人って、こう……愚直なんですね……。
んむう、ちゅ、性に正直と、言いますか……。
ううう、んん、ちゅ、ちゅっ……とは言え、
女子校の、女生徒もそこまで、変わらないとは、思いますが……。

んん、ちゅ、ちゅうう……あっ、うう……。
んんむ、ちゅ、ちゅッ。
はあっ、あっ、うう……んん、ちゅッ。
れろっ、んん、ちゅ……。

(主人公「速度、あげてみましょうか」)

そ、速度……？

わかりました……。

下手なので……高望みしないでくださいね……？

うううっ……んんんっ、んっ。

はあっ、あっ、ん……んんうううっ。

(主人公「反対の耳も」)

は、反対……？

こんな動いてるのに……っ、まだ要求するんですか……？

うううっ、はあっ、はあ……っ、男性って、

こんなに要求の多い生き物なんですか……っ？

ううッ、ん、私には、わかりかねます……っ。

これっ、あくまで、

はあっ、はあっ、はあ……っ。

成績のためでは、ありますが……っ。

んん、ちゅ、ちゅっ、男性の性欲に、気持ち負けそうです……ッ。

んむう、ちゅっ、ちゅ、はあっ、うっ、ん、ちゅ。

れろ、ん、ちゅ……んん、ちゅく、ちゅっ。

はあっ、あっ、うう、ん、ちゅッ、ちゅ。

んん、ちゅむりゅ、ちゅ、ちゅ……。

うううっ、んぷんん、ちゅ……ちゅッ。

はあっ、はあっ、う、んんうう……ッ、ちゅ。

あっ、あああ……すごい、擦れる……ッ。

ううッ、ん、ちゅ、そういえば、先端……フックになってましたね……っ。

そこが、はあっ、あっ、ああっ、ナカで、引っかかる……っ。

ペニスって、ううッ、ちゅ、んん、ちゅっ。

なんで、こんな形に……ッ、ううっ、ん……ッ、。

(主人公「ペニスではなく、チンコ、チンポと」)

い、いや……っ。

性器呼称はっ、そんなっ、ううッ、下品な言い方……やめて……ッ。

ひゃ、百歩譲って、お、おちんちん、止まりです……っ。

はあっ、はあっ、おちんちん、ならっ、

ママさんとかも、言ってそうですし、はあっ、うううっ、

まだ、マシです……っ。

はあっ、ああっ、ん、んっ。

そんなに、呼称大事ですか？

興奮、するのですか？

んう、んっ、はあっ、はあ……っ。

うううう……ッ、あっ、ああ……ああ、あのっ……。

先生、少し腰動いてません、か……ッ。

やめてください……ッ。

うううッ、ん、無理やりされたら、

私、男性不信になります……っ。

アッ、あ、んっ、んうう……っ。

それでしたら、ま、まだっ、私が、腰を……っ。

うううううううう……ッ！

あああっ、あっ、はあっ、ん、んくう……！

私ッ、こんなに動けるんだ……！

じ、自分で自分が、信じられない……っ！

あああっ、はあっ、ん、んくんんう……！

あっ、あうッ、んうううう……っ！

ああっ、アッ、ああっ、ごめんなさい……！

はあッ、はあッ、こ、これ言ったら軽蔑されると思い、ますがぁ……！！

ごめんなさい！

で、出ます……ッ！！

ああ~~~~~ッ！！

うううッ！ ごめん、なさいい……！

お漏らし、アッ、ああ……！！

やだっ、なに、これええ……！

んやああああ！！

待って待って！！

やああああ！

いやあつ、ああああ！

勝手に動かないでええ！

あああつ！ いやっ、ああッ！！

(主人公「素晴らしいですよ……興奮させられました！」)

こ、興奮っ！？

お漏らし見て、興奮したんですかっ！？

(主人公「あれは潮吹き……オトナの特権ですよ！」)

しっ、潮吹き？

はあつ、ああつ、ま、まだ、知らない単語ばかり……ッ！

ああああッ、わ、私っ、勉強不足う……！

ああああつ、うくつ、んッ！

はあッ、はああッ、んううう、あん、んっ！

そんなに奥を突かないでくださいいいい……ッ！

あああつ、だ、ダメ……！

これ以上はッ、はあつ、ああつ、んんううッ、あ、あああ……！！

(主人公「中に出していいですか？」)

な、中はダメ！！

外に出す約束だったじゃないですか！！

んひやあああああ！！

あああああああッ！

だめえええええ！

気持ちいい！ 気持ちいいっ、けどお……！！

あああッ！

はあッ、はあっ、んううあああ！！

私もイッチやうう～～～ッ！！

あああッ！ 出さないでくださいいい！！

んうう～～～ッ！ いいいいっ、イクッ！！

でも中はッ、中はあッ！！

いやああ～～～ッ！！

中に出さないでええええええええ！！

んあああああああああ！！

んぎゅうう！ い、いやああ……！！

出てッ——あ、あああ……！！

あああッ……あああ……ッ！

んうううっ、はあっ、う、ううう……ッ！

やだッ……妊娠、しちゃう……っ！

うくッ、んううう……ッ。

はああ……はあ……ッ。

酷い、です……ッ。

私、約束守ってきたのに……あなたは、こんなこと……。

んう……ッ、う……。

(主人公「感想はどうですか？」)

か、感想お……？

この状況で、ですか……？

えっ……あ……………あの、気持ち、よかったです……。

いい、いまも……おちんちん、どく、どく、してて……。

検診、終わりですよ？

あの……これじゃあ、され損と言いますか……あんまりです……。

……少し勉強してきます。

性について。

その上で……その……答え、出せたら……な、なんて……。

(主人公「なにか悩んでるんですか？」)

そ、そりゃあ悩みますよ……ッ。

怒りたいのに、悲しみたいのに……ッ、

精液の心地で、その……っ、そんな気持ちが、湧かなくて……。

はああ……ですので、少し、時間おかないと……。

あ、あの……お疲れ様、でした。

Track_13 遥月・シェリー

●背景：教員用男子トイレ

◆遥月

あ！ せんせえ、みつけた！

◆シェリー

直江さん、直江さん……ちょっと。

◆遥月

なに？

◆シェリー

職員用トイレですよお、ここ！

◆遥月

え、別によくない？
シェリーも一応職員だし。

◆シェリー

いやいや。ココ、男子トイレなんでえ。あと、一応じゃありません。

◆遥月

つかアタシらしいかないんだし、入ろ入ろ。誰かに見られちゃうほうがマズいよ。

◆シェリー

あわわわ……。

◆遥月：

せんせえ、おしっこ中に失礼しまーす。

◆シェリー

……し、失礼しまーす。

◆遥月

あは。どーも♪

◆シェリー

あ、あはは……すいません、突然。
実はその……この直江さんと、こないだの検診の話をしまして……。

◆遥月

うんうん。情報交換みたいな？
結構、違いあるんだね。
話してるうちに、アタシもシェリーも、もう一回したいねーって。

◆シェリー

はは。そういうわけなのでして……。
そんな時に、先生の後ろ姿をお見かけして……。

◆遥月

見て見てシェリー！
やっぱ、せんせえのでかいよ！
勃起してないのに……すごいよねっ。

◆シェリー

ちょ、ちょっと……っ。
で、でも……。
直江さんの言う通り…やっぱり…おっきい…っ。
半勃起の状態でもうこんな……はああ……。

◆遥月

シェリー、速攻、雌になりすぎ……。
でも、握っとかなきゃ損だわ。
手のひらできゅっと。わっ……ほんとだ、熱っつ。

◆シェリー

そ、それなら私も……！
わあ……熱い……！
あの、もう小用は済みました？
ふるふるって振るときでしょうか？

◆遥月

ちょっとずつ硬くなってきた。
……でもまだ、全然マックスじゃないよね。

◆シェリー

あは。なにせ検診の時は、最初からフル勃起でしたもんね。

◆遥月

あれはヤバかったあー。
オトメにいきなりこーんな凶悪なの、間近で見せてさあ。

◆シェリー

いきなり、お口でご奉仕させられたりして。あは。

◆遥月

そうそう。こんなふうには、舐めさせられたり……。

んちゅ、うふ、んくう、んっ、ちゅふ。

こうやって…左右から、シェリーの左手と、アタシの右手の指を絡めて…

◆シェリー

あ。コイビト繋ぎってやつですねっ。

◆遥月

それで…組んだ指と指の間に……ゆっくり……チンコを挿入して……。

ほらシェリー、いっしょに……せーの。

じゃーん。手マンコ……！

◆シェリー

あ…凄い…直江さんと、私の手の中で、みるみる大きく……。

ああ……ガチガチだあ……♥

◆遥月

やば、どんどん硬く、熱くなってく。アタシらの手マンコミチミチに広がってきて……。

◆シェリー

はあ、っ、握ってるだけで、こんなに……。

しかも、なんだかヌルヌルに……だんだんスムーズに、手が滑るように……。

でも…相変わらずおちんちん以外は、ポーカーフェイスなんですよね。

◆遥月

そうそう。そこんところ、どうなの、せんせえ。

美女ふたりのダブル手マンコ手コキなんですけどお？

(主人公「抜いてください」)

あは。お許し出たあ♥

じゃあ、少し張り切ってえ……。

◆シェリー

はあいつ。

んっ…左手で手マンコを続けながら……

右手できんたまを優しく揉んで……♥

うわあ……♥

毎日、いっぱい射精してるはずなのに、どうしてこんなに重たいんですか……？

◆遥月

た、溜まってっ？

そうなのっ？

金玉働かせすぎっ、ブラックじゃん。

あ、じゃあさ？

先に射精させた方に入れるってゆーのはどう？

◆シェリー

いいですよ……そのバトル、乗ります……♥

でも、どうやって判断します？

手コキじゃ、どっちがイカせたかわからない。

◆遥月

なら……せんせえが満足した女が勝者……。

いい？

おっけ。

とりま耳舐めで……勝負かな。

◆シェリー

あ……じゃあ、私も耳のご奉仕、しよっと。

ちゆる、ちゅう。

おちんちん……カウパー塗れのぐちゅぐちゅになってきましたあ。

◆遥月

亀頭も膨らんで……握ってる竿も脈、激しくなってきた……♥

ちゅっ、んん、えろ、るろ、ちゅ、はあ……きんたまも降りてきてる…？

◆シェリー

はっ、ちゅ、んむっ、ふふ……これ、準備してますよね。

おちんちんの先から、今にもセーシ飛び出しそうですし……♥

◆遥月

ん、ちゅ、ふぁ。マジだ。

チンコの角度、もーえっぐいもん。

はぁぁ……。

これ本番だったらぁ、ゴリッゴリ子宮抉り上げられるヤツじゃんね？

◆シェリー

想像するだけで……子宮に電気来ちゃいます……んんっ、っ。

◆遥月

めっちゃ欲しくなってきたっ……。

ん……今から、シゴキまくるね……っ。

◆シェリー

ちょ、直江さん……急に速すぎいつ！

◆遥月

あは。ごめんごめんっ…でも、シェリーも息合わせてよ？

◆シェリー

はいつ……。

◆遥月

ね……アタシたちの手マンコにいー

◆シェリー

ちゃんと中出ししてくれますかぁ？

◆遥月

ふふ。じゃ……もっとサービスっ、せんせえの、乳首、いじったげるね。

◆シェリー

じゃ、じゃ、私もっ。反対の、乳首……っ。

◆遥月

シェリー、まねっこばかりじゃん。

いいけどさあ、あはっ。

ただ、このままだと最初にチンポ挿れてもらうのがアタシってだけ♪

◆シェリー

そ、それはっ……ちょっと、イヤですねっ。

◆遥月

は、あ、手コキしまくりながらあ……乳首をクニクニして……♥

◆シェリー

舌を伸ばして……耳を攻めながら、はあ、ん、ちゅばっ。

◆遥月

よく考えりゃココ、職員トイレ……だよ？

こんなところでこんなエロいことしちゃってる……アタシら。

◆シェリー

すっごく、興奮しちゃいますね……。

◆遥月

んんんッ。チンコ、めっちゃ膨らんできた……あ！

シェリー？

◆シェリー

分かってます、直江さん……。

◆遥月

にぎ……にぎ……にぎ……にぎ。

◆シェリー

にぎ……にぎ……にぎ……にぎ。

◆遥月

しこ……しこ……しこ……しこ。

◆シェリー

しこ……しこ……しこ……しこ。

◆遥月

ああっ、今、イキそうになったんじゃない？

◆シェリー

黙ってたって、おちんちんから直に分かるんですよ？

◆遥月

我慢なんかしなくても……せんせえなら、何回も射精出来るよね？

◆シェリー

早く…射精してもらって……おちんちんは、おまんこに欲しいんですけど……。

◆遥月

シェリー、本音漏れすぎ。

◆シェリー

だっつ……。

◆遥月

あは。でも、手コキの音やばくない？

めっちゃエロい気分になるじゃんつ。

◆シェリー

ぬちゃ、ぬちゃ、ぬちゃ、ぬちゃ……あ～……すごい。

◆遥月

もう……イカせちゃおうよ。

高速W手コキ……やっちゃうぞっ。

◆シェリー

はいつ。

◆遥月

しこしこしこしこ、しこしこしこしこ。

◆シェリー

しこしこしこしこ、しこしこしこしこ。

◆遥月

ぬちや、ぬちや、ぬちや、ぬちや。

◆シェリー

ぬちや、ぬちや、ぬちや、ぬちや。

出そうですか？ 射精しちやいそうですか？

◆遥月

あ、チンポきてるっ……セーシが昇ってきてるって！

◆シェリー

あ……射精してっ、射精してっ、射精して……っ！

◆遥月

射精しちやえ、射精しちやえ、射精しちやえ…！

あっは、出たあ……っ！

◆シェリー

んんん…っ、出ましたあ…！

◆遥月

すごっ、びゆくびゆく…熱くて濃ゆいのが、便器の中に…

◆シェリー

はあ……あああ……すごい……濃厚……♥

ちよっともったいないですね。

◆遥月

めっちゃセーシ出てるう……コレ、勢い強すぎて便器割れるんじゃない？

◆シェリー

そんなに破壊力あったら私たちのおまんこがヤバイですよ…

◆遙月

あはは。そりゃそうだ。

◆シェリー

それで…どっちでした？

勝った方が、おちんちん…挿れてもらえるんですよっ？

◆遙月

それぞれっ。せんせえのチンコはどっちがいいのっ？

ありゃ？ チャイム。もーそんな時間かあ。

◆シェリー

うあ……っ！

夢中になって、すっかり忘れてました…私このあと担当授業が…

◆遙月

シェリーはここで離脱かな？ざーんねんでした～

◆シェリー

シェリー、＼は、…？

◆遙月

シェリーが授業に行ったら、せんせえのチンコは自動的にアタシのモノかな、って。

◆シェリー

えええ……そんなあ～～……！

一つて、そんな訳ありますかっ。直江さんのクラスですよっ。

ほら、教室に戻らなきゃ。早く！

す、すみませんが……勝負は一旦お預けということで。

次こそは、おちんちん頂きますから…！

よろしく、お願いしますね。

Track_14 美彩・シェリー

●背景：保健室前

◆美彩

…2-A、斎藤美彩です。

あの…よろしいでしょうか？ご相談したいことがあるのですが—

◆シェリー

失礼しま～す。悩める乙女一名、お連れしました～。

◆美彩

た、橘先生……？

つ、付き添いは別に……。

それより、あの……私いつもの高梨先生に相談したくて……

◆シェリー

あの美人の？

◆美彩

……はい。

この人がいるとは…思っていませんでした……。

◆シェリー

あ、本来の保健室業務は今だけ理科準備室に移転中なんですよお。

◆美彩

えっ？

◆シェリー

この部屋、検診期間中はソレ専用ってことになってて。

ほら、ベッドがあるでしょ？

◆美彩

……っ！

◆シェリー

あれ？ 周知はされていたかと思いますが？
ですよね？ 先生。

◆美彩

……うう。
し、失礼します。私は理科準備室の方に一

◆シェリー

う～ん。斎藤さんはココがよいと思いますけど…

◆美彩

…なぜですか？

◆シェリー

だって、斎藤さんの悩みというのは処女検診に関することでしょうか？
熱を帯びたほお、憂いのある瞳、濡れた唇、落ち着きのない指の動き……つまり？
身体、疼くんではよ？

◆美彩：正面

そんなわけ……。

◆シェリー

うう～ん。素直じゃないなあ。
私も、処女検診を受けたんですよ？そして初めてを先生に……。

◆美彩

そ、そんなことが……。

◆シェリー

あれから身体が疼いて仕方がないんですよお、私。
この時間ならお手すきと伺いましてえ。
予約はないんですけどお、職員特権で、いけます？
職員トイレの約束通り、おちんちんを貰いにきちゃいました～。

◆美彩

お、おちん……ええっ……？

◆シェリー

抜け駆けになってしまって直江さんには申し訳ないですが…ふふ。

◆美彩

た、橘先生…いったい、何を言って…？

◆シェリー

はい、これから先生にハメて…いえ、再検査してもらいますよ。

◆美彩

……っ！

◆シェリー

あ、そうだ。斎藤さんも一緒にどうですか？悩みは同じようですし—

◆美彩

えっ、えっ、えっ…？

◆シェリー

さあさあ、支度しましょ！

◆美彩

き、きゃあっ？

◆シェリー

全部脱ぐと隠せないのだからスカート以外の下だけ脱いじゃいましょう！

◆美彩

た、橘先生……！

う、嘘ですよ？

◆シェリー

嘘じゃないですよ～？

ほら、先生を見て？

ん、しょ……。

はい。ノーパン♪

次は斉藤さんの番。

◆美彩

え、えっ……だからっ、ちょっと……待ってくだー。

うう……待ってくれないさそう……ですね。

わかりました……。

先生は見ないでくださいね……？

うう……っ。

ん……もお……。

これで、どうですか……？

◆シェリー

さ……入れちゃいましょう……♪

私、ずっと欲しかったので斉藤さんもぜひ♪

◆美彩

わ、私は……！

◆シェリー

おいで～？

◆美彩

わ、私……恥ずかしいです……。

◆シェリー

平気だよ～。

私がついてるから♪

さー。どっちからでも、お好きに頂いちゃってください♪

どっちにします？

親子井ならぬ先生と教師の——なんだろ？

教鞭井？ 教師井？

◆美彩

なんでもいいですからあ……。

な、なに……。

◆シェリー

わ……おちんちんお目見え♪

しかもフル勃起だ～♥

◆シェリー

来た来た……♥

んん、やあん……わ、私っ？ 嬉しい……。

◆美彩

ああ……橘先生……。

◆シェリー

生徒の上で……お尻、驚掴みにされて……どきどきしちゃいます……。

◆美彩

あうう……ね、熱気と湿気が、私に、まで……。

◆シェリー

に、にやう……っ！？

は、あ……！

ああ、き、来たあ……ああ……っ！

◆美彩

くっついてるお腹越しに……入ってくるの……伝わる。

◆シェリー

あっ！

はあ……はあ……。

おちんちんの……先っぽが…私の中を掻き分けるようにして……！

こ、これ……っ、欲しかったの。あれから、ずっと……。

◆美彩

あっ……橘先生の、熱いのが……繋がってるところから垂れてくるっ。

◆シェリー

うん…ずっと、とろけっぱなしだったから……ね。

んっ、あ、くふ、や、やっぱり…大きいっ……んんッ、っは…

ご、ごめんねえ……。

先生が先におちんちん、もらっちゃってっ……♥

す、すぐに斎藤さんのおまんこにも……挿れてもらえるからねっ……。

なので……動いてください♥

ふうあ、っ、あ、あああつ、あ…ああっつ！

◆美彩

あうっ、勢いが、凄いつ……！

教師が、男性に犯されて……あられもなく、嬌声をあげて……！

◆シェリー

おちんちん……気持ちいい……っ。

ダメ、このおちんちんっ、やっぱり凄い……っ！

◆美彩

肉同士がぶつかる……粘液が混ぜ合わさる……激しい音……！

すぐそこにある、橘先生の唇から甘くて熱い吐息……。

それに男女のケモノのにおい……！

◆シェリー

ふっううう、んうううっ…！

だめっ、すぐ、っ、きちやうやっ、これ……っ。

ま、まだ、挿れてもらった、ばかりなのに……っ。

んん、くうっ、はあっ、あああ、っつ……！

◆美彩

すごい……っ、ドキドキします……！

◆シェリー

初めてのバック、でっ、おまんここじ開けられて……！
精液、注がれちゃうっ。

◆美彩

えっ？

た、橘先生っ、ご、ゴム着けてませんけどっ……！

◆シェリー

ご、ご心配なく、だ、だいじょうぶ、ああッ！

◆美彩

だ、大丈夫じゃないでしょっ。

◆シェリー

アフターピルを、準備してきましたから……っ。

だ、大丈夫なんですっ。

◆美彩

う、うそ……っ？

◆シェリー

もちろん……斉藤さんの分も…用意して、ありますからね……？

あ、安心してくだ、さ、んん……っ。

でも、さすがに気持ち、よすぎ、で……っ。

あっ、ご、ごめんなさっ…先にイキそう……。

先生も、遠慮なく射精してくださいねっ……！

来て……！

きやああ……っ！

あ、っ、あああ！ つああっんッ！

◆美彩

また動きが激しくっ、ぐふっ、おなかに、力がかかって、く、くるしいっ……！

◆シェリー

あっ、あっ、あっ、そんなに奥、ずんずんされたらっ……！
い……イクのを合わせろだなんてっ……！
そんなの、コントロールするの絶対ムリい！

◆美彩

イク瞬間に、膣が締まるから、本当に……勝手な人……っ

◆シェリー

ああああ……ああひい……いい、いいっ……！
あっ、あ……おちんちん……膨らんで分かるう……すごっ。

◆美彩

あ、ああ、わ、私の子宮にまで伝わってくる……♥
種付けしようとしている……ペニスの動きだ……！

◆シェリー

ああッ……い、一番深くまでっ、おチンポ、打ち込まれてッ、射精、される……ッ！
あ、は、ああ、お、んんっ！
はあ、ああ、んん、ふああ、んっ！
あ、は、ああッ、あうう、あ、あッ。

◆美彩

あうっ、た、橘先生っ、爪が、食い込んでっ……痛っ。

◆シェリー

んん！ うっ！ あ、あああッ！
うくっ、うぶ、んんっ、あ、あ、あ、おあ、ん！
イクッ！
ああっ！ イクでしょ？ 私も！
ナカにッ来てえええ！

あッ！ は、ふあ！
あ、あううッ、ふあ、あ……ッッ！

お、おまんこの奥でッ、精液、感じて……！
きやあ、あ、あ、あ、ああっ……ッ！

あ、はあ、んん、お待たせ……♥
斎藤さん……お待ちかねのおちんちん……♥

◆美彩

え……あ、私、待ちかねてなんか……！

◆シェリー

はあはあ、バトンタッチ、ですねっ……♥
んああああ……♥
抜けたあ……♥

◆美彩

ちょっと……ま、待ってくださいっ。
そんなすぐにその……、
た、橘先生から……抜いたばかりの……せ、セーシ塗れのペニスを……だなんて……。

◆シェリー

斎藤さん……？
もう意地を張らないでいいんですよ？
ガマンは心身ともに悪影響ですからね。

◆美彩

い、意地なんて……。

◆シェリー

恥ずかしがらなくっていいんですってば……。
女の身体なんて…そういう風に出てくるんですから……♥

◆美彩

うう……やらないきゃ、終わらないの、でしたら……。
……あなたに初めてを奪われてから、私の身体はどうにかなって……しまいました。
これほど間近に、見せつけられて……身体が疼かないはずが、ないじゃありませんかっ。
くっ、う、うう……。

◆シェリー

頑張っ、斎藤さんっ。

もっとストレートに……♥

◆美彩

お、お願いします……。

すう……はあ……すう……！

私にも、あなたの……お、おちんちんを……ください……ッ。

き……きやうッ！

◆シェリー

とうとう斉藤さんのおまんこに……♥

◆美彩

あ……んんッ、ん、く、ツツ。

ああ、ふうあ、つ、あ、あああつ、あ、ああつつ！

お……おお……ああ……んん……つ。

◆シェリー

あはっ、斎藤さん……おなか震えてるっ……。

ひょっとして、挿れられただけで甘イキしちゃってる？

◆美彩

は…あ…あああ…こん…つ、こんなの…ガマンできない…っ。

◆シェリー

ふふ、気持ち良さそう。斉藤さん…随分焦らされたもんね…

◆美彩

あっ、はあっ、気持ち、いっつ。

あっ、あ、あっ、あっ、あ、あああ、すぐっ、あ、こんな、簡単に……っ！

ま、また、きたっ、あ、あっ、もっ、もうッ。

◆シェリー

斉藤さんってイキ続けちゃう、タイプなんだあ……！

◆美彩

はあっ、はあああああっ、あうっ！

◆シェリー

セーシと愛液のミックスジュースが……っ。

あん、すごい飛沫っ。

あとでシート……換えなきゃだ。

◆美彩

あ、あああっ……さ、最初からっ……は、激しすぎっ、るっ！

やあっ、こんなのっ、おまんこが……壊れるう！

◆シェリー

ほんとに激しいっ……♪

私ごと、突き上げられてるみたいだもんっ。

◆美彩

お、奥っ、弱い……っ。

だからだからあ……っ！

な、波がっ、止まらないからっ、おかし、く……なるう……っつ。

◆シェリー

わわわ……斎藤さん、おちんちに、速攻で分からされちゃってるっ。

◆美彩

イクイク、イク、あっ、あん、んんんッ。

◆シェリー

すごっ……♥

ふだんはあんなに清純そうな顔してるのに……こんなイキ顔しちゃうんだあ……♥

おちんちん……斎藤さんのおまんこを出入りするたび……私の子宮にも響くっ……♥

◆美彩

すご……お、奥に、ごつごつ当たって……気持ちいい……！

◆シェリー

これって……ポルチオノックだよね……♥

子宮が降りてくる角度のピストン……これはヤバイですよ。

◆美彩

あああっ……！

イツ、も、もお……ひと突きごとにクルう……あ、あ、あ、あ、あっ、あっ！

◆シェリー

うわあ……♥

気持ちよさそお……♥

私まで、おまんこの奥、むずむずしてくるよお！

斉藤さんの、連続イキすごいつ……♥

これが若さか……いや、これは斎藤さんの素質だよね……清楚ビッチ♪

◆美彩

んんっ…橘先生の重み……でっ、おなか押されてっ、ゴリゴリ当た、る……っ！

◆シェリー

先生？ もうちょっと本気出して♥

◆美彩

あ、あ、ふあ……！

ふあ、あっ、んおっ、んあっ、あっ、あっ、ああああんつつっ！！

◆シェリー

わ、すご……！

はあ、ああ、ふう、あは、んんっ、ずんずん響くうっ！

うわ、まるで悲鳴みたい……！

あ……コレ。

先生も、もうイキそうなんじゃないですっ？

いいですよ？

斉藤さんの子宮にも……一発、濃ゆいの流し込んでやってください♥

◆美彩

ああッ、また、生おちんちんから精液、おまんこに出されちゃうっ…孕んじゃうっ！

◆シェリー

あは。だから…アフターピルを—

◆美彩

生ハメで妊娠……ッ。

あ、赤ちゃん、で、出来ちゃうのにつ、い、イッちゃうっ！！

おまんこのお、奥で、子宮に精液ぶつけられるのがっ、一番、気持ちいいのっ……！

◆シェリー

うわぁ……この子、本物かもっ……♥

目が覚めたって感じ。

◆美彩

あ……き、来てるっ……！

お、おちんちんにつどくどく血が集まってっ……ムクムク膨らんでるの分かるっ！

ああああああッ！

射精する瞬間……っ！

あ、あっ、今、いま……！

これ、これこれこれえ…ッ！

ちょうだい……ちょうだいっ……！

精液もつと注いでっ……！

私、受け止められるからあ！

アッ、アッ、ああああああ……ッ！！

アッ……！

お、お、お……ふぁぁ…ッ！

あはっ、はぁッ、んっ！

ううう……！

ずっと射精してるのにッ、おちんちんおつきなままぁ…っ！

◆シェリー

斎藤さんの絶頂の波が……私の子宮も揺らしてくるよお……♥

ヤバヤバっ……♥お

こんなの、私も、おちんちん欲しくなる……っ♥

◆美彩

出てる……！

び、びゆるびゆる……っ。

精液出てるう……ッ。

私のおまんこにい、は、くう、ふうううん……！

あ、あおう……ッ！

あ、あ、あ……あふれるう……！

◆シェリー

わわ……大量っ。

ベッドの下まで……垂れちゃってるっ。

◆美彩

ご、ごめんなさいっ……！

ふあ、あああ……！

と、止まらないい……！

は、はあ……し、シーツダメにしちゃう……！

あ、あ、ん……！

◆シェリー

あは……どこまで淫乱になっても、そういうの、
気にしちゃうところが斎藤さんらしいというか……。

◆美彩

はあ、はあ…はっ…はっ…

◆シェリー

まだおちんちん、全然萎んでないですね……うれしいです。

だって次は私と三回戦です……♥

おまんこ、準備万端ですからね……♥

●背景：保健室

◆遥

じゃ今日の初発射をいただいちゃいますかあ。
チンポのお世話は……アタシがしてあげるから……。

◆遥月

一番搾りの……濃ゆいのを、アタシのまんこに、ナマでびゅっぴゅしてね。
じゃ、さっそく挿れちゃうね……っ。
んん、ん、あっ、お、おお……！
ああああ……っ。
う、久しぶりの、チンポお。
んう、やっぱ、おっき……っ。

◆シェリー

いーなあ、おちんちん……。

◆遥月

ん、もう痛くない、気持ちいい、だけ。うおお、サイコーかつ。
あ、あれから、何をやってても、SEXのこと、しか、考えられなくなってさあ……。
さ、はじめよ……♥

◆シェリー

……分かる。

◆遥月

あんなの知っちゃったらさあ……。
オナっても、オナっても、全然おさまらないし……。

◆美彩

……分かる。

◆遥月

おい左右の表情っ。分かりみ深すぎない？
サカってんのは、アタシもおんなじだしっ……。

はっ、んん、っ、あ……ふぁ。

ほら、見える……？

せんせえのチンコ、ぜんぶ入っちゃったよ。

はぁ、アタシの重みで、すっごく、深いっ。子宮、持ち上げられてるの、感じるっ。

◆シェリー

うん、それっ。息苦しいのに、満ち足り感がすごいんですよっ。

◆美彩

主導権……握ってるはずなのに、やっぱり犯されてるんだって……分からされる。

◆遥月

ん、このままでも、気持ちいいけどお、やっぱ動きたい……っ。

まずは、ゆっくり、んっ、抜いてえ。

あ、子宮から、チンコが離れるっ、でも、カリの引っ掻きがやばい……っ。

アタシのまんこのひだひだ、容赦なく、めくってたしっ……。

◆美彩

あ……あ……抜けちゃいそう……。

◆遥月

ぬ、抜かないって……。

射精してもらうまで……このチンコは、アタシのまんこから出さないんだからっ。

あはっ……で、また腰を落としてっ、お、お、おお……

ま、また……チンコの先っぽが、子宮にキスして……うおっ。

せんせえ……いつでも、イッていいよ？

◆シェリー

そうですねっ、その方がスグに交代してもらえますしっ。

◆遥月

そんなこと言われると……焦らしちゃいたくなるんだけどお？

◆シェリー

意地悪ですねえ……。

なら、先生の方を……責めませんか？

◆美彩

はい……どうすれば……？

◆シェリー

これです……♥

耳♥

◆美彩

わ、わあ……。

それでしたら……私も……。

◆遥

やっと、アタシのものになったチンポなんだから……好きに楽しませてもらうんだから……っ。

はあ、んっ、せんせえもだよ？

じっとしてて……くんなきや……っ。

ふう、あ、いま、このベッドで一番えらいのは、アタシい、あはっ。

あんッ、お、おいつ……。

耳舐めで、んう、すげえ、びくびく、してる……っう。

◆シェリー

あんなこと、言ってますよ……先生？

◆美彩

すごく激しいのを、突き上げてやってください……。

◆遥月

ひやああああッ。

お、おい！

おまえらッ——あうううっ！？

せ、せんせえはっ、じっとしてるようにってアタシ言ったよねえッ？

きやああっ！

あつ、あああ、つああつん、こ、こらあ、腰、動かしちゃダメえ！
ひ、ああ、ふうあ！

◆シェリー

いい喘ぎっぷりです……♥
ベッドでどれだけ偉くても……おちんちんには逆らえないみたいで♥

◆遥月

お、奥っ、奥好きすぎるう！
感じすぎるう、またこんなっ、な、な、きやほおおん！
ああああつ。
だからっ、動かないでっ。
あ、ああッ！

◆シェリー

ふわああ……っ。
直江さん、すっかり、子宮が降りちゃった顔してるう……♪

◆美彩

……子宮が、降りる？

◆シェリー

正確には、膣の入り口側が締まって、膣奥に空間ができる生理運動ですね。

◆美彩

感じると……なってしまうのですか？

◆シェリー

おまんこ全体で、おちんちんから精子を吸いあげるための運動ですから。

◆美彩

女の身体というのは……つくづくSEXをするために、出来ているのですね。

◆シェリー

ですよねえ～。

◆遥月

うるせえうるせえ！ ふつーに話してんなバカッ！
あ、あ、あふうう、うんっ、もお、軽く三回、イッてるけどおっ。
ホント、ヤバイよお！
生チンポ、ほんとにおかしくなっちゃうっ！

んあ、せんせえも、きもちいいのっ？
あ、アタシのまんこお。
あは、うれしっ。チンコが返事してくれたあ……！
アタシのまんこの中でビクビクって……ッ。
んん、くうっ、はあっ、は、激しいいっ！

◆美彩

直江さん、かわいい顔してる。

◆シェリー

贅沢…っ。早く代わって欲しい…ですっ。

◆遥月

んんんッ、まだ、やだあッ。
でもせんせえにはイッて欲しいんだよね……！
アタシのまんこで、気持ちよくなって欲しい……っ。
ね？おチンポ…射精して、くれる……？
今日の、初射精、濃ゆいのっ、欲しっ……！
あああッ！ んぎゅ、グッ、すごッ、あああッ！

◆シェリー

ほら、きんたまも、せーし射精したそうにしていますよ。斎藤さんも触ってみて……？

◆美彩

あ、直江さんの愛液でべとべと……。
パツンパツンに張って、指先を押し返してくる…

◆シェリー

揉み揉みしてあげたら、気持ちよさそー。

◆遥月

もう射精しちゃええ！
ほらほらほらあ！

◆シェリー

揉み、揉み、揉み……ほら、斎藤さんも……。

◆美彩

あ、はい、揉み、揉み、揉み……。

◆遥月

ほらあ、射精しちゃえ、射精しちゃえ！
んっ、あ、ふ、んっ、うんっ！
ていうか、あ、ヤバ、こっちが先にキちゃうっ、あっ、あ……っ！！

◆シェリー

これ、もうイッちやいますよっ……！

◆遥月

あ、お、おおお、イクッ！
きやあ、あ、あ、あ、ああっ！
また、また、イイ、イクッ！ ふううッ！

あああああああッ！！
んんッ、ナカに、射精っ、あ、はあっ！
イクイクイクっ！
また、ザーメンイキするうおおおっ！
んんんッ！
イク！

あああ！ つ、いつ、くうううっ！
はっ、あああッ！

んう……はああ、はああ……！
はあーっ、もーダメッ、腰、抜けちゃった～～……。
お次い、どお～ぞ～～っ。

んううああああ……♥

◆シェリー

それじゃあ、次はどちらが行きましょうか、斉藤さん？

◆美彩

……へ？

◆シェリー

いや、二番手は決めてなかったじゃないですか。

あんなの、見せられたら、斉藤さんだってすぐヤリたいですよねえ……。

◆美彩

……っ。

◆シェリー

じゃんけんで、決めちゃいましょうか……？

◆美彩

い、いえ、その、わ、私は……。

◆シェリー

教師と生徒の間柄にも、負けられない戦いがあるっ、じゃーんけー

◆美彩

よろしければ……橘先生からどうぞ……。

◆シェリー

い、いいんです？

◆美彩

は、はい…

◆シェリー

じゃあ遠慮なく……っ。

◆シェリー

よいしょ。
うふ……次は私がお相手しますよっ。
このまま、頂いちゃいますね。

◆美彩

橘先生もゴムを着けないのですか？

◆シェリー

もちろん……ナマ姦淫ですよお。

◆遥月

絶対ナマの方が気持ちいいじゃん。
それがすべてじゃない？
アタシもナマ一択だったし……。

◆美彩

……はぁ。

◆シェリー

腰を沈めて……。
は、あ……っ、
すごい……ぬるっと、入っちゃう……！

お、大きい……！
おなかを圧迫されて、ん、は、つく……！
口から空気が押し出されそお……！
う、ううんっ……っ！
お、おちんちんっ……全部、入っちゃいましたぁ……えへへ。

◆美彩

おちんちんが……濡れて、真っ白……です。

◆遥月

さっきアタシのマンコで出した精液だよね。

◆シェリー

んっ……私にも、いっぱい出してくださいね。
子宮でタマゴが待ってますからあ〜。

◆美彩

……まさか、橘先生。今日は危険な日なのでは？

◆遥月

そうなの？

◆シェリー

大丈夫……じゃないかな？
アフターピルも……ありますし。

◆美彩

……。

◆遥月

まあ、SEXって、セーシ注いでもらってなんぼってところあるし。

◆美彩

……否定はしませんが。

◆遥月

ま、出来たら、出来た時ってことで……。

◆シェリー

……その時には先生にもらって頂いてえ。

◆美彩

た、橘先生っ！

◆シェリー

と、とにかく、んん……っ、全部、膣内にくださいね……っ。
ああ……っ、ふっ、っは、っ……先生の大きな手……好き。

お尻をガッシリと掴まれて……。

◆遥月

って、ちょっとM入ってるよね。

◆美彩

……それは直江さんもそうじゃないですか？

◆遥月

斉藤さんはどうなの？

まだやってるところ見たことないけど……。

◆美彩

知りません……。

◆遥月

あ、せっかくなら耳責めてやろーよ。

そっちよろしく。

◆美彩

あ、はい……。

さっき同じ要領で……。

◆シェリー

ふう、ううっ、包み込むように……それでいて、力強く、身体ごと引き寄せて、んっ、んっ……。

ああ、男の人の上で、おっぱい揺らしてる……！

おちんちん引き抜かれて……っ、ああっ、また……奥、入って来られて……っ。

だめ……っ。

腰、溶けちゃう……！

耳舐めのおかげで……おちんちん、膨らんでる……っ。

◆遥月

マジでえっぐいね。

あんなもの凄いのがマンコに入ってたんだよ……？

◆美彩

知ってます。見てましたから。

◆シェリー

あっ、あ、はあ、んんっ、ヤバっ。こんなに、すぐは、っ、やあ、あ。
ま、まだあ、イキたくなッ、ずっと、おチンポ入れてたい、のにい。
ひっっ、はあううっっ、は、ああっ、はああ、ッ。

◆遥月

うわ、あんなに深くて重たいピストンされたら……。

◆シェリー

ヤッバいいっ、ヤバッい、いっ、ヤバ、アいい、い！

◆美彩

橘先生、子宮がおりちゃってると思います。

◆遥月

何それ？

◆美彩

さっき橘先生がご自分で。感じすぎるとそうなるらしいです……。

◆遥月

ふうん。

◆美彩

はい……さっきの直江さんと完全に同じとろけた顔してますから。

◆遥月

アタシ、あんな顔してたん……っ？
はずかし……っ。

◆シェリー

もおっ、恥ずかしいから、あまり言わないで……。

私だって、羞恥心あるんだよお？

はああつ、はああつ……つ。

◆遥月

せんせえ？ もうちょいスピードあげてみない？

◆シェリー

ああああああ……ッ。

アッ、んっ、うううッ、さらに、激しく……！

◆美彩

ああ……。

このエッチな音……女子校には相応しくなくて異様です……。

◆遥月

な？

共学じゃなかったから……こんなんでできると思ってなかった♥

◆シェリー

んああ！ おちんちん、どんどん膣内で、太くなってえ……！

だめっ、これ、おまんこの奥、ゴツゴツ、叩かれてるっ。

◆美彩

先生……いつもは、あんな笑顔なのに……。

こんな、エッチな……。

◆シェリー

はあ、あッ。あああ、んっ。

イっ、いく……！

生徒たちにつ、協力してもらって、私は、しあわせですっ！

◆遥月

あは。シェリー、気持ちよすぎて、なんか変なこと言ってる。

◆美彩

んじゅ……。あ、あなたももうイクんですか？

◆遥月

いいよ、せんせえ。

いっぱい出して、シェリーもザーメンイキさせちゃえ……♥

◆シェリー

しゃ、射精してください…。

おまんこの中に、ぜんぶ……っ！

◆美彩

ふん、むふ、はむっ、っちゅ、れえ、るろっ。

イクんだ……イクんだ……。

射精しちゃうんだ……。

いいですよ、いいですよ……出して！

◆遥月

いっちゃえ、いっちゃえ、せんせえ。ほらっ！

◆シェリー

あああああああ……ッ！

私からもっ！ きっ、キス……！

っちゅ、れ、っはあ、ああああ……ッ！

んっ、はあ、あ、むっ、っは、あっ、んっ……！

じゅん、じゅる、ふあんん、は、あん、ふあ……。

◆遥月

えっろ……♥

シェリー、本気イキしちゃえよ♥

◆美彩

い、イっちやうんだ……！

あ、ああああ……。

◆シェリー

おっ、おっ、イクイクイク……！

また、ずっとイッちやうッ。
あ、は、イきまつ、うんっ！
あああ、あッ、膣内で、射精してえ！！

◆シェリー

出てるっ！！
あ、あっああ……！
あっっつ、イツ、イツで！
一緒にい、一緒にいッッ！
中出しされ……！
んあああああ……ッ！！

◆美彩

なんて……長い……。
ずっと射精し続けてる……私の分は、残るのでしょうか……。

◆シェリー

う、あああ、ああっ、あ、あああッ……。
ああっあああ……ッ！
すごかった……。
んんくうっ、んんはあ……。

はああああ……っ。
もお、だめ……。

◆遥月

すご、チンポガチガチに元気じゃん。

◆美彩

心配する必要ありませんでした……ほんと底なしですね。

◆遥月

ほらほら、次は斎藤さんの番だよ。

◆美彩

私は一、

◆遥月

この期に及んで、なに遠慮しちやってんの？

◆美彩

やっ？

な、何をっ……！

◆遥月

なにして……触診～～。

ほらほらあ……。

斎藤さん、まんこ濡れ濡れだし……。

◆シェリー

わ、ほんとだ……準備万端、トロトロですよ……ココ。

◆美彩

んんっ、そ、それは……。

あんなの、見せられたら、誰だって……。

◆シェリー

そうなんですよっ、私たち、セックスまで晒し合った仲じゃないですかっ。

◆遥月

今更、何を隠す必要があんのかって、ね？

◆美彩

うう……。

◆遥月

だからほら……無理せんと、はよ。メスになっちゃえ。ね…せんせえ？。

◆シェリー

三回戦、お願いしまーす。JK一丁追加で…っ！

◆美彩

では、あの……よろしくお願ひします……。

基本は同じ……ですよ？

これまでのおふたり同様に、仰向けあなたの上に跨って――

ふあ、んっ、あ、つく、っつ！

アッ、ううう……！

◆遥月

あは、せんせえ～、いきなりイッたね～～。

◆シェリー

御託はここまで。いざいざ。

◆美彩

あっ、ああ、ふあ、はあ、ん、おちんちん、一息に奥まで、来たあつ。

あっ、あつ！

んんくっ、あ、ああっ、んんっ、ふああんっ。

◆遥月

斉藤さん、気持ちよさそうな顔してるよ～

◆シェリー

凄……っ。

あつという間にスイッチ入っちゃうんですねえ。

◆美彩

はあっ、はっ、っふ、っ、きもちいいです……！

んお、おまんこが、ああ……っ。

◆遥月

ほんと、さっきまでの恥じらいはなんだったんだっていう……

◆美彩

最初からっ、こんなは、激しいっ、の、絶対ムリ……！

あ、ああっつ。

あああつ、だ、ダメっ……！

いや、いや、イッちやう、イッちやいますッ。
ひうっ、んん、あっ、あ、あ、あ、はっ、はあはあ、んんっ。

◆シェリー

さて、直江さん。私たちはどうしましょうか？

◆遙月

どっか舐める？ キンタマとか。

◆シェリー

じゃあ耳舐めしましょ？

◆遙月

それが一番よさそう。

◆シェリー

先生気持ちいい？

◆遙月

チンポ舐めてる気分で……舐めてる♥
これ、フェラチオな。

◆美彩

あっ、はっ、ひ……んッ。
耳舐めって……ッ、すごい……っ。
ナカで、びくんびくんっ、て……！

◆遙月

あは、反応いいね。じゃあアタシはそーだなあ……。
斎藤さんのおっぱいを触らせてもらっちゃおっかなー。

◆シェリー

いやらしい顔だあ。

◆遙月

アタシ、実は女の子も好きなんだよね～。

斎藤さんって、もろ好みでさ。一回揉ませてもらいたかったんだよね～
ふふ。細身のわりに、かなりおっきいんだよねえ…サイズどれくらいなん？

◆美彩

あ、え、はあ……え、Fです……っ。

◆遥月

デカっ、マジで？

んじゃ……脇から手を差し込んで……。

◆美彩

きやつ……！？

◆遥月

はあ～～この柔らかさっ。いつまでも揉んでたいわ……♥

手に吸い付くようで、それでいて弾力があり、ピクピクと身体が跳ねて……感度も良好。

◆シェリー

おっばいレビューアーだねえ……。

◆遥月

あくまでソフトに……さわ、さわ……さわ、さわ……。

でも乳首はおあずけ～。

アタシ、結構上手いでしょ？女の子とは結構ヤッてたからね。

◆シェリー

うんうん。斎藤さん感じてますね。

ジュースが溢れて止まらないんですもん。

◆美彩

ふあ、んん、んッ、だっ、く、んんッ、あっ……んっ。

◆遥月

そしていよいよ、てっぺんを……。

◆美彩

ん…ッ！

◆遥月

乳首、こりこりに勃起してて、チョー最高の指ざわり～。

◆シェリー

反応いいですね～……。ふふふ。

◆美彩

っは、っ、はあ、お、おかしくなるっ……！

おかしくなるう……！

◆遥月

ズコズコ生チンコ出し入れされながら、おっぱい揉まれて、耳舐められて……！

それであんあん喘いでんだから斎藤さんは……中々変態だわ。

◆シェリー

あと、清楚ビッチ。

◆美彩

あ、やあ、っ、ひどいこと、い、言わないでっ。

◆遥月

褒めてるんだけど？

◆シェリー

うんうん。髪も綺麗だし、肌も綺麗で、おっぱいも大きい…で、ドスケベ。

◆美彩

ひぎっ……っ。

恥ずかしいです……ッ。

あっ、んん、ああ……っ。

ああ、またおちんちん、膨らんでる……ッ。

こ、腰……ッ、がちり掴まれてっ……！

◆シェリー

先生。激しいの……いっていいよ？

◆美彩

んうう……ッ！

すご、すご、すごいところ、当たるっ……！

おまんこ、に、こんな気持ちいいところ、あったなんて……っ。

おまんこの一番奥のスイッチっ、押されたからあ、つつ。

な、なんか、ずっとイッてる、あッ、あ、波が、繋がってる……ッ！

あ、は、ああ、もっと子作りしたいッ。

イキたい、イカせたい……っ！

◆遥月

結局、嫌がってた斎藤さんが、一番孕み願望が強いんだよねえ。

◆シェリー

一度、赤ちゃん部屋にザーメン流し込まれたら……理性なんか、すぐめちやくちやになるんですよ。

◆美彩

あ、は、ああ、お、んんっ……ッ。

はあ、ああ、んん、ふああ、んっ。

◆遥月

斎藤さんが……ううん、アタシらが、変なんじゃないよ……。

これが……ありのまま。

◆美彩

ふ、ふあい……あふああっ、あん、あん、あんんっ。

奥、奥、奥う……っつ！！

◆シェリー

喘ぎ声が大きいですよお……？

まだ生徒がいる時間なのに。学校の噂になっちゃいますよ……？

◆美彩

でも、ダメなの、押さえられないの……！

さ、叫んじゃうの……ッ。

あ、あ、あっ、射精の準備でおチンポに、どんどん血が集まってチンポが、チンポがあ、ムクムク膨らんでるの……っ。

◆シェリー

あ、きんたま上がってきた……！

これって、もう、です？

◆美彩

おおっお、はッ、あ、あ、あッ……ふああ！

◆遥月

せんせえも、そろそろ限界？

射精しちゃいそ……？

◆シェリー

先生？ 激しくしちゃって？

◆美彩

んう～～ッ！！

そ、そんなのっ！

あああッ！ 今でも限界なのにつ、ムリiiiiiiiiッ！

◆遥月

いいから、いいからっ。

◆シェリー

イケ、イケ～～。

◆遥月

こんなに揺すってもチンポ抜けないよっ……！

やっば、せんせえのデカチンって凄いわ。

◆美彩

好き勝手にチンポ刺さったまま、振り回されてる……！

好きい……！

あ、あなたのっ、赤っちやあんん…産みます、か……っらあっ！！

お、お願いします……！

わ、私の膣内に、精子を……精子を……ッッ。

◆シェリー

妊娠は極端だよ～？

ふふ。

でも、あの斉藤さんが……こんなにチンポ落ちしちやって…。

◆美彩：

射精、射精くる……！

生ちんちんで中出し、生おまんこに中出し、してもらっ！

ンっ、んんん、ッ！あ、ああああ……！

み、みんなから攻められて、イツ、っ、イツ、クう、っ……！

ああああああ……！！

あっ、はああ、ふああ……！

んん、んッんッ、イイ、イ、イグううっ♪

ンう~~~~~ッ！！

あああッ、こ、濃いものあッ、ああっ……！

奥のッ、奥、まで……！

はああっ、アッ、あああ……！！

く、ううう……ん、ううう……ッ♥

◆シェリー

気持ちよさそうでなによりです……♥

私も、見ていてドキドキしました……♥

◆美彩

やあ……っ。

恥ずかしい、です……♥

◆遥月

じゃ、せんせえ。また明日もよろしくうー！

◆美彩

ええっ？明日？

◆シェリー

直江さん…っ？

◆遥月

いやだって、一対一の、じっくりたっぷりな検診も受けたいかなあって。

◆シェリー

そそ、そんな、これ以上の課外検診は、さすがに教師として…ちょっとお。
…え、いいんですか？

◆遥月

やったあ♪

◆シェリー

……あの、私も…その、アリだったり…します？
おおおっ、じゃ、私もっ…追加検診希望で…っ！

◆遥月

結局、シェリーもやりたいんじゃない

◆シェリー

そりゃまあ、教師の前にオンナですしっ。
それと……斉藤さんは、再検査は希望しますか？

◆美彩

あの……。

……校則云々というのは、この際、ひとまず置くとして…自分の気持ちを…第一に考えるに
……。

◆シェリー

えっと……。

◆遥月

めんどくさいなあ。

◆美彩

えっと…その、よろしければ、ですが。ぜひ私も……
抱いていただきたいと…っ。

◆遥月

はいはい。よく言えました。

◆シェリー

では、そういうことで。

◆美彩

……はい。せいの。

◆シェリー

また明日。検診の予約、お願いします！

◆遥月

また明日。検診の予約、お願いします！

◆美彩

また明日。検診の予約、お願いします！